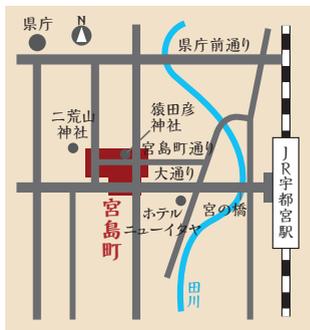




▲昭和2年ごろの宮島町の彫刻屋台



▲現在の猿田彦神社



また、二荒山神社との縁が深く、第二番神祇町として猿田彦の面と衣装を所有し、猿田彦神社が建立されており、菊水祭など二荒山神社の祭礼に毎年参加して

この辺りはかつて、川や沼など湿地に囲まれた島のような地形だったので、宮島町と呼ばれるようになったといわれています。

宮島町は、古くから商人の町で、かつてはたくさんの方が住み、江戸時代から明治時代には、古着屋や穀物屋、荒物屋などが軒を並べていました。



古いまちの呼び名と
こぼれ話を紹介します



宮島町自治会
会長 増淵 好次郎さん

いる他、戦災で焼失してしまいました。市内一といわれた金彩と総黒漆の屋台も所有していました。

猿田彦神社では、毎日、日暮れまで、多くの子もたちが遊んでいるなど、とてもにぎわっていました。時代の移り変わりとともに、住民は少なくなりました。また、二荒山神社の祭礼のたびに、町内一丸となつて参加するなど、町内の絆は昔も今も変わることなく、とてもしっかりしています。

これからも、この宮島町の歴史と文化を守り、未来へ繋いでいくためには、宮島町らしさを残しながら柔軟に対応していかなくてはなりません。温故知新を心掛け、皆さんに愛される宮島町にしていききたいと思えます。